

◆ 新春対談 ◆

父、小渕恵三氏から
受け継いだもの

JA1LXG 小渕 優子 衆議院議員が語る アマチュア無線の世界

(聞き手：JARL 会長 JG1KTC 高尾 義則)

昨年世の中は、平成の時代から令和の新時代となりました。今は去ること約30年前、昭和から、平成の時代への歴史の移り変わりを伝える重要な役割を担ったアマチュア無線家がいらっしゃったことを、きっと当時活躍していたアマチュア無線家の皆様もご存じのことでしょう。

昭和38年に衆議院議員に初当選され、以後、昭和から平成の時代の転換期に内閣官房長官職に就かれていた小渕恵三(元衆議院議員)氏です。

J11プリフィックスのコールサインの免許を受け、熱心なアマチュア無線家としてアマチュア無線を大いに楽しんでいらっしゃったとのこと。

JARLが日本初のアマチュア衛星JAS-1(1号機、FO-12)の打ち上げを計画していたころ、当時の郵政省(現在の総務省)、文部省・科学技術庁(現在の文部科学省)等の主管庁に対して、「アマチュア衛星の打ち上げが日本の科学技術等の振興にとって非常に重要な役割を持つ」として支持・助言をいただき、宇宙開発事業団(NASDA、現在の宇宙航空研究開発機構(JAXA))が開発していたH-Iロケットへのサブペイロードの一つとして、1986年8月12日に民間初のアマチュア衛星JAS-1の相乗りが実現、無事打ち上げに成功し日本のアマチュア衛星1号機JAS-1が誕生したのです。



◆ 平成おじさんという愛称でも親しまれた小渕恵三氏



◆ 国会アマチュア無線クラブ JG1ZQU の初交信。小渕恵三氏(中央)、関谷勝嗣氏(左)、原 昌三元 JARL 会長(右)



◆平成16年に開催された国会アマチュア無線クラブ設立25周年を迎えた総会のひとこま。亡くなられた父・小渕恵三氏に代わって、新たにアマチュア局JA1LXGを開局したばかりの、小渕優子衆議院議員（左から2人目）がメンバーとして加わっている

国会アマチュア無線クラブの設立

時を前後して、この日本初のアマチュア衛星打ち上げ活動の途上ですが、国会関係者のアマチュア無線家の方は思いのほか多く、当時の原 昌三JARL元会長をはじめとした多くのアマチュア無線家の提案等により「国会にアマチュア無線クラブを設けよう」と、アマチュア無線家としては同好の士である関谷勝嗣衆議院議員（当時）ほか、国会関係のアマチュア無線家と共に、昭和55年12月10日に国会アマチュア無線クラブ（JG1ZQU）が設立されました。

一方、小渕恵三氏は、一般の方の間では、国会議員である以上にその時の印象から、既に故人となった今でも、いわゆる「やさしい平成のおじさん」の親しみのあるニックネームで呼ばれています。

その後、さまざまな官庁の大臣を歴任し、平成10年7月にはアマチュア無線家初の国政のトップである第84代内閣総理大臣に就任されましたが、平成12年4月、在職中発症した病気により、惜しくも同年5月に急逝されました。

偉大な父の後継者。小渕優子衆議院議員

その後、父、小渕恵三氏を引き継いだのが、小渕恵三氏の次女である小渕優子衆議院議員です。平成12年6月25日に初当選した小渕優子議員は父が常に持っていた「アマチュア無線スピリッツ」をしっかり引き継ぎ、国会議員就任後にはアマチュア無線の免許を取得。アマチュア無線局JA1LXGを開局し、平成16年に開催された国会アマチュア無線クラブ総会で、コールサインが初披露され、その後、忙しい公務の合間にハムフェアやJARLが開催する式典など各種イベントにも快く参加いただいています。

令和2年の新春座談会では、熱心なアマチュア無線家として、父、小渕恵三氏のアマチュア無線に関するエピソードや、父から受け継いだことなどについてお



◆ハムフェア2017の特設ブースでモルルス送信体験にチャレンジする小渕議員。「簡単だと思ったのに、実はとても難しいのですね…ちょっと悔しかったです（笑）」と本人談

話をうかがいました。

高尾会長「今日は公務お忙しいところわざわざお時間を割いていただきありがとうございます」

小渕議員「どういたしまして」

高尾会長「JARL会員をはじめとしたアマチュア無線家の皆様の中には、すでにご存知の方も多いと思いますが、まずは最近の大きな活動等を簡単にご紹介ください」

小渕議員「平成12年6月におこなわれた衆議院総選挙で初当選させていただき、これまで務めさせていただきました。近年では自民党沖縄振興調査会会長として議会活動のほか、10月31日、火災で消失した琉球の象徴「首里城」の早期再建に向けて、専門組織を立ち上げる準備に奔走する日々でもあります」

高尾会長「なるほど。令和の新時代になって、小渕議員の役割、活躍の場がこれまで以上一層に重要になっているということですね。」

ところで、衆議院議員に就任した直後にアマチュア無線の免許を取得されたのは、お父上の小渕恵三氏のことを引き継いだ結果の一つなのでしょうか？お父上が大好きだったアマチュア無線に関する興味深いエピソードや、アマチュア無線の免許を取得されたきっかけをお聞かせいただきたいと思います」

小渕議員「父は生前、技術的な好奇心がたいへん旺盛でした。そもそも、父の趣味だったアマチュア無線を幼少の身で初めて意識したのは、父が突然自宅に持ち込んだアマチュア無線機を見かけたときです。父がその無線機を操作して実際に運用していた姿もおぼろげながら覚えています。小渕家は父・母・兄・姉・私の5人家族です。父はこのころ“家族みんなでアマチュア無線の免許を持とう”と言っており、ほどなく母・兄・姉の3人はアマチュア無線の免許を取得したそうです。

実は、幼い身だった私も家族のみんなと免許を取得したいという意識はあったのですが、家族からは、“優子はまだ幼いから今はまだ免許は難しいね”と言われており、その後、免許を取得する機会に巡り会うこと



◆父・小渕恵三氏から学んだアマチュア無線感を語る小渕優子衆議院議員(右)と、聞き手JARL会長 高尾 義則(左)

がなかったのですよ」

高尾会長「そうですか。平成12年にはなくなられた父上の意思を継ぎ衆議院選に出馬され、見事に初当選され、当選後、アマチュア無線の免許を取得されたのはその時の思い出も強かったのですね」

小渕議員「はい。その幼少の頃、“なんで私だけ免許を取らなくていいの？”というちょっと物足りない寂しい気持ちも少なからずありましたが、それ以上に、“年齢や職業などの隔てなく仲間を大きく広げることができるコミュニケーションツール”としてのアマチュア無線ということを生前の父から学び、さらに家族や親戚からもアマチュア無線のこの仲間の集まりを大切にしていっての方がよいとアドバイスをもらったことが、そのタイミングで免許を取得した一番の理由です」

高尾会長「なるほど。小渕議員にはハムフェアやJARLが開催するさまざまな記念式典にご多忙中、お時間を割いてご参加いただきありがとうございます。

平成29年のハムフェアにご参加いただいた際には、特設催事ブースでモールス信号の送信などを意欲的に

体験していただきました。これらアマチュア無線イベントにご参加いただき忌憚のない意見や感想などをお聞かせいただけませんか。

小渕議員「はい。覚えていますよ！2年前のハムフェア(ハムフェア2017)のモールスコーナーのお話しですよ。パッと見ではとても簡単そうに見えたのに、実際に電鍵を握ってみるときれいにうまく操作できませんでした(笑)。ちょっとしたモールスショック(!?)でした。でも、何事も見かけだけで判断してはいけない事例の一つのような気もしました。そして、JARLのイベントに参加してみると、アマチュア無線という同じ趣味を持った仲間の和やかでありながら、楽しい雰囲気は好感が持てます。ハムフェアもよく拝見させていただいております。無線機等は余り詳しくなくて、拝見するいろいろな出展物に、いったいどのようなありがたいものがあるのかよくわかりませんが(笑)、とにかく賑やかで熱気あふれる雰囲気がとても楽しいですね。そうそう、アイボールミーティングに参加なさる女性のアマチュア無線家の皆様からも、アマチュア無線に関するとっても興味深いお話を井戸端会議的な楽しい雰囲気であかがうこともできますし、年齢や職業などの隔てのないコミュニケーションの場の大切さを実感します」

高尾会長「そうですか。アマチュア無線の世界は以前から男世界という印象が強く、また年齢層の高齢化の傾向が顕著に見られます。現に女性や青少年層のアマチュア無線家は非常に少ないことから、近年JARLでは女性や青少年のアマチュア無線家の皆さんにアクティブにご活躍いただきたく、また育てるための活動を積極的に取り組んでおります。ハムフェアの女性並びに青少年の入場料を無料にすることもその一環ですが、以前、内閣府特命担当大臣(男女共同参画、少子



◆小渕議員はJARLアイボールミーティング等にも積極的にご参加いただいています。



◆2018年のアイボールミーティング会場にて。左の泉田裕彦衆議院議員(7K1KJK)もたいへん熱心なアマチュア無線家のお一人です。国会アマチュア無線クラブ再結成に向けて、国会関係者のアマチュア無線仲間が確実に集まりつつあります。

化対策)を努められた小淵議員の目からご覧になってこれら、女性や青少年に向けたアマチュア無線の世界への啓発活動についてご意見がいただければと思いますが」

小淵議員「アマチュア無線の世界に人口が少ない、女性や青少年といった層を対象とした入口の裾野を広げるJARLの取り組みはとても重要だと思いますし、今後も引き続いて取り組んでいただきたいですね。

またアマチュア無線は以前から、非常災害時等ライフラインが寸断した状況下でも有用な通信手段として注目を集めていますね。引き続きJARLにおかれましては、この有用な通信手段のアマチュア無線を多くの方に周知広報していただければと思います。

社会貢献という意味合いで現役のアマチュア無線家の方々への活動支援や啓発活動も引き続き積極的に進められるようお願いいたします」

高尾会長「当連盟の活動にご理解を賜りありがとうございます。お言葉を頂戴しさらに努めて参る所存です。

アマチュア無線の各種のイベント等にご参加いただいておりますが、新たに何か得られた事などがありましたらお教えいただけますか」

小淵議員「国勢の活動等についてもまったく同じなのですが、父から学んだとおり、何よりも、“年齢や職業などの隔てなく仲間を大きく広げる大切さ”がアマチュア無線の世界から強く感じられます。今後も、アマチュア無線家の皆様とのつながりを、より一層大切にしていきたいと思っています」

高尾会長「最後になりますが、お父上が中心となり国会関係者の方々が集まって設立された、国会アマチュア無線クラブ(JG1ZQU)ですが、ぜひ再結成・再開

をアマチュア無線家として願っておりますところですので。動きなどがあれば教えてください」

小淵議員「国会アマチュア無線クラブの再設立については、ぜひ早期に実現したいという願望があります。

特にJARLのアマチュア無線関連イベントの席上などでも、原田憲治衆議院議員(JP3GJV)、伊東良孝衆議院議員(JK8MHB)、泉田裕彦衆議院議員(7K1KJK)ほか、よくお目にかかる国会関係者でありアマチュア無線家でもある皆様方も多くいらっしゃいます。そういった国会関係者の方々にもぜひ積極的に呼びかけて、父が設立した国会アマチュア無線クラブの再開設を早期に実現したいと考えております。

国会アマチュア無線クラブの再開設を目指すに当たりまして、JARLの皆様にもぜひご支援ご協力を心よりお願いいたします」

高尾会長「JARLとしても、お力になれることがございましたら何なりとお申し付けください。ぜひ国会アマチュア無線クラブJG1ZUQの再結成を祈念しています。また、今後のアマチュア無線界へのご支援、ご協力を心よりよろしくお願いいたします」

小淵議員「了解しました。再結成を目指しメンバー丸となって努めて参ります。アマチュア無線についてのご要望にお応えできるよう努力したいと考えています」

高尾会長「ありがとうございます。よろしくお願いたします。本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます」

小淵議員「どういたしまして」



◆力を合わせアマチュア無線の将来・活性化に向けて固く握手